

モニター通信 No.2

皆さんから寄せられた「モニター通信7月分」を紹介します。

**「インバウンドの減少によるあなたの今後の消費者行動について」
～新型コロナウイルスのパンデミックにより、日本国内のインバウンド消費が
激減しました。今後あなたはどのような消費者行動をとりますか～**

モニターから No.1

今回のコロナウイルスによる各業界への打撃は、観光業のみならず全業種に影響を及ぼしていると思います。倒産した企業が何軒とかの新聞記事を見るにつけ、胸が締め付けられます。それに働く従業員の生活が心配です。国家財政の許す限り支援が求められると思います。

昭和初期生まれの私は、個人的には世の中昔から色々波が有り、苦境の時には歯を食いしばり頑張る努力も時には必要かなと思います。現代は誰もが豊かな生活に慣れ、それなりに皆中流の生活感で過ごしている訳で、これはこれで良い事ですが、今日のような天災と言うべき時期には、質素な生活に心しつつ消費行動を実践したいと思いますが、なかなか生活の質を下げることは容易ではないが、命が有るだけ儲けものだと思い、一段と毎日の生活に張りを持ち精進したいと考えます。

またこんな時にこそ芸術や娯楽によって、物質的には貧しいけれど精神面の充実感が非常に大切であり、心の豊かさによりもう一度自分の人生観を見詰め直し、日々過ごしていきたいと思います。

モニターから No.2

私は国内旅行が好きだ。海外にも5～6回行ったところで、私のアウトバウンドは終わった。海外より国内の方が私には合っているというのが分かったためだ。なので、本音を言うと、あまりインバウンドに賛成ではない。旅先の混雑やマナーの悪さを何度も見てきているので、このまま静かだったらとさえ思ってしまう。

しかし、ホテルやお土産屋さん、それらに関わる大勢の業者や人々にとっては死活問題なので、今とても困っておられるだろうことは想像できる。なので、私としてはGOTOキャンペーンが有ろうと無かろうと旅行に行きたい。ましてや今春予約をキャンセルしているので、すぐにでも行きたい。しかし、この

コロナ禍では、行きたくても行けない。

もしも感染してしまったら、自分自身だけではなく周囲に迷惑がかかってしまう。それはどうしても避けたい。そのため、観光地に少しでもお金を落とし、助けたい気持ちはやまやまだが、特効薬やワクチンが出来るまではステイホームを続けていくことになるだろう。一日も早く今の状況が良くなることを祈りながら、張り切って行動を起こせる時期を待つことしか、今はできない。

モニターから No. 3

日本政府観光局（JNTO）が5月20日に発表したデータによれば「4月の訪日客数は前年同月比99.9%減の2,900人」であったことが判明した。もはや海外渡航による観光収益が絶望となった今、私だけの消費者行動がどれほどの社会的影響をもたらすものなのか甚だ疑問ではある。

インバウンド回復のスペンは、各人の意見にバラつきがありまとまらない。たとえば星野リゾート代表・星野佳路氏が「1年～1年半」、また某外国人企業家は「3年以上」とも言う。さらに各界のリーダーと称される方々は、やたらにコロナ収束後の環境づくりや地域産業振興政策ばかり強調する。

経済最優先は政治家の皆さんに任せるとして、私たち民間人は治療薬・ワクチン等の国内民間企業による研究や開発を、人道的に支援するボランティア団体こそ理想的なのだが……。私自身、その全体像が全く見えてこない。それ以上の詳細が何も浮かばない。この思考停止状態は、コロナとは無縁なのは明らかである。

モニターから No. 4

インバウンド消費の激減と言っても、我々一般消費者にとっての影響が感じられる場面に出くわす事はほとんどない。だが、コロナウイルスのパンデミックにより観光地とされる繁華街に行けば、外国人（特に中国人？外観が日本人に似ているので大きな話し声で他の国の人だと気付く）が少なくなった事が感じられはする。

コロナウイルスが広がる前は、茨城空港が近いという事もあったのか、このあたりは中国や台湾からの観光客が多かったのだろう。ひたち海浜公園にペタペタとサンダル履きの集団がネモフィラやコスモスの咲く時期に訪れている姿に巻き込まれた事がある。ソフトクリームや軽食売場に行列を作り、大声で話す中国語や笑い声にあふれていた。銀座もしかり。宝石店の前に横付けされた大型バスの中から何人も人が降り立ち、歩道を横に広がりゾロゾロと歩くので道をふさがれ立ち止まった事が何度もあった！！その上我々がウィンドウショッピングだけで通り過ぎる高級ブランド店のショッピングバッグを両手に持

って歩く姿に少し羨ましい気がしたのも否めない。また、浅草もしかり。浅草寺や浅草神社の周りを揚げまんじゅうや煎餅を食べながら通り過ぎる観光客がたくさんいた。

そして七五三の時期や、たまたま遭遇した結婚式に大喜びでシャッターを切る姿に我々も幸せのおすそ分けと一緒にいただいたようで嬉しかった事もあった。皆、日本的な物や日本での花の咲き頃を見計らってのツアーが組まれたのだろう。その帰国時「爆買い」などという言葉のもと、日本経済をかさ上げする人々を一般の人々は歓迎していたのだろうか？

今はコロナ禍の中、感染のリスクを負う事が恐く銀座も浅草もTVの向こうに放映される閑散とした場面を見るにとどまっているが、他の国の人々の懐事情で日本経済が成り立っているのだとしたら、なんと貧しい心根で日本人は成り立っていたのだろうか。今、他力の消費に踊らされずに自国の消費生活も含め、足元をみて世の中を見ていきたいとつくづく感じる。身の丈に合わない消費に踊らされた幸福感ではなく、個人それぞれの幸福度を測る機会を与えられたと思っている。

急激に右肩上がりに進んでしまった経済の上昇が幸せ度に繋がったと思う人々のおごった気持ちが、コロナのパンデミックにより間違えて取り込まれてしまった幸福度を取り戻すことが出来たらと思わずにいられない。経済の上昇が幸福度に繋がるわけではない。落ちつけ、落ちつけ、落ちつこう。経済もコロナの蔓延も！！

モニターから No. 5

《食品ロスについて》

「食品ロス」！！なんというもったいない。第二次世界大戦終了直後の生活を知っているわたしには、社会のあまりの変わりように驚くほかない。当時、食べられるものを捨てるなどということは考えも及ばないことであった。そのように過ごしてきたから、現代に生きていて、自身の生活においては食品ロスをなくすように努めている。

食べる予定のないものは、当然買わない。買うときには、それをどのように食べるのかを考え、買って帰ったら、そのように調理する。少量を買うことが難しいものは、生鮮食品なら連日にわたってでも消費していく。長く保存できる食品・缶詰などでも、その存在を忘れないようにする。スーパーマーケットで、賞味期限の都合で安売りになっているものでも、消費期限までまだ半年も一年もあるもの(スパイスなどに多い)があるが、そういうものは自身の生活で使えるものなら積極的に購入して、食品ロスをなくすことの手伝いをも心がけている。三度の食事もデザートのカッキーも食べるものはすべて自宅で調理してい

るので、食べたくないものは作らないし、食べられないほどの量は作らないし、味付けも自身の口に合うものだから食べ残すということはない。調理済み食品とか出来合いの料理・お惣菜・弁当などで家庭の食事を済まそうとすることが、買い過ぎ・想定とは異なる味付けなどで食べることができず食品ロスの大きな原因となりうるから、家庭の食事は家族の嗜好・食べられる量を考えながら自宅で調理すべきと思う。

モニターから No. 6

新型コロナウイルスの感染は、いろいろな方面に影響を及ぼしています。日本の観光地での外国人旅行者の減少もその一つです。経済的な打撃は報道にもあったように、相当大きかったと思います。観光地では混雑が緩和される一方、閉鎖されたお店も少なくありません。いかに外国人旅行者が日本におとしていくお金が多かったということでもあります。一方でマナーの悪さや自分勝手な行動等、目に余るものがあつたのも事実です。

日本には世界遺産に登録されている歴史的遺産が数多くあります。そして我々日本人には守っていく義務もあります。これを機会に、管理費としてそれ相応の料金を外国人旅行者に課すことも考えていいのではと思います。

本題から少し外れましたが、最近ではコロナに関していったん収まったものの、また感染者の集団クラスターが各地で発生し、最初の状態に戻りつつあります。医療従事者の方々が日々コロナと闘っている姿を見れば、おのずとこれからの自分のやるべき行動が見えてくるはずです。今、私たちが心掛けることは自粛と人ごみに行かないことだと思います。観光地に行くのもしばらくはお預けです。今では名産品のお取り寄せも可能です。日々の心掛けと協力がコロナ収束への一番の近道だと思っています。

モニターから No. 7

いっこうに終息めど立たない新型コロナウイルスでGOTOトラベルなんて考えられない。豪華客船にも乗りたいし（貧乏だから乗れないけど）、四季折々の景色も見たいし名所にも行きたいが、今は行くべきではないと思います。経済影響的には難しい判断だと思うが、命と比較することは話が拡大しすぎてしまう様な気がします。

ゴルフ場の駐車場では自粛期間中でも首都圏のナンバーがゴロゴロ、飲食店に比べゴルフはソーシャルディスタンスがかなり広く取れますから、少しは安全だと思いプレーしている人もかなりいます。またゴルフプレーのスタイルもガラッと変わり、飲食を挟まない18ホール連続のスループレーが流行っています。これならかなり安全ではないかと思い私もプレーしています。

何をするにも、やはり自分がどうすれば安心安全かを良く考えてから行動したいですね。目先の割引に眼がくらまないように、ゆっくり状況判断して行動したいと思います。でも夏休みは気が緩んでしまうかもしれません。

国や報道関係者はしっかりと注意喚起させる報道に力を注いでみんなの心に釘をさして頂きたいものですね。

モニターから No. 8

新型コロナウイルスが一時落ち着いたものの、再び第二波が押し寄せ、その拡大はまだまだ続きそうである。非常事態宣言の解除・十万円給付・GOTO キャンペーンと経済立て直し政策により、いったん緩んだ気持ちを再び引き締めるのは難しい。茨城県でも都心への往来の自粛・通勤通学者への最大限の注意喚起、PCR検査の拡充、と矢継ぎ早に施策を出してきている。

私の消費行動は、緊急事態宣言が解除され、学校や公民館が再開した頃から、コロナへの感染防止策（マスク着用・帰宅後の手洗いとうがい）をしながら、以前の状態に戻しつつある。楽しみの一つである友人との会食は、回数や人数（4人まで）を減らし、場所の選定や席には気をつけながら行っている。買い物も女性の楽しみでもあるので、メモを持ちながら近所のスーパーに行ったり、たまにはショッピングセンターに出かけたりしている。

観光業界が大変な打撃を受けていると報道されているが、宿泊を伴う旅行やバス旅行はまだ考えられない。今までに、県内へ家族と数回車で出かけただけである。東京以外なら出かけても良いかと思うときもあるが、現地で不特定多数の人と出会うことを考えると不安である。夏休みになり、孫達を海やプールに連れて行ってあげたいと思うが、どこも閉鎖されていて行き場所が無く可哀想に思う。なんともすっきりしない気分であるが、高齢で基礎疾患のある自分にとっては、新型コロナウイルスが収束するまでの我慢比べと考えるほかない。

モニターから No. 9

終息不明のコロナ禍による日本国内インバウンド消費が激減し混雑緩和、マナートラブル減少でホッとした地域がある一方で観光立国日本にとっては国の経済を左右する市場だと思うと複雑です。国内消費を活発化については、とにかくコロナの収束です。日夜命がけで取組まれておられる多くの方々に感謝致し、今この自分に出来る事は何か【感染しない！ させない！】を合言葉だけにせず、たとえ小さな行動でも結果が出るまでやってみて他に伝えてみる。相手の反応からも教えて貰える物があり、コミュニケーションで繋がり、今をどう越えて行けるか向かう強さに繋がり知恵も付きます。

モニターから No. 10

今年度のゴールデンウィークは日本国民がステイホームを意識した過ごし方でした。このような過ごし方をすると誰も予想していなかったと思います。新型コロナウイルス感染拡大を予防すべく、現在も都道府県をまたぐ移動は自粛傾向にあり、ひとりひとりが命を優先した行動は言うまでもありません。第二波ともいえる感染が広がりつつあり、今後は娯楽や観光についてはしばらく自粛すべきことだと考えています。新しい生活様式や環境に慣れて、さらに世界的に新型コロナウイルス感染が終息できれば、ぜひ以前のように観光業が賑わいをみせるのではないのでしょうか。今すべきことは、命を守るための消費者行動だということ意識して日々を過ごしていきたいです。

モニターから No. 11

新型コロナウイルスが蔓延してから世の中は大きく変わりました。2020年がまさかこんな年になるとは予想もしてみませんでした。今後自分が消費者としてどんな行動をとるかは新型コロナウイルスの陽性者がこれ以上増えるかどうか、ワクチンや特效薬ができるかどうかによって多少違ってくると思います。ただもともと我が家は夫も私も派手にお金を使うほうではありません。また現在の主な収入は年金であるため暮らしぶりは質素です。ですからコロナウイルスの感染者が減って観光地に賑わいが戻ったり、景気が回復したりしても我が家の消費者行動には大きな変化はないと思っています。ただ今回社会や経済に大きなダメージを与えたコロナウイルスによるパンデミックでわかったことは、これからもまたいつどんなことが起きかわからないということです。

東京都知事小池百合子さんのモットーは「備えよ常に」ということばですが、私自身としても生活はできるだけ小さく、その中で楽しみを見つけ、またいざというときのために経済面、健康面、その他さまざまな面で準備しておくことの重要性を感じています。

モニターから No. 12

今年は新年の始まりから新型コロナウイルスに悩まされ続けています。前回の買い占め問題から始まって感染拡大の防御に日本全国が全力を挙げて取り組んでいます。その中で国家の経済も非常な落ち込みで重症化しています。どうしたら健全な日本の国、世界の国々を取り戻すことができるか少し考えました。2月3日のクルーズ船入港、3月1日のコロナ感染による乗客の下船から日本、世界がコロナウイルスに巻き込まれました。人力を尽くして現在もコロナと闘い続けています。

この中で一番気になったのはPCR検査で感染者確認に長い時間を要した事

と確実な治療薬がない事でした。しかし最近の報道によれば

- ①PCR検査が唾液PCR検査になったこと。
- ②既存薬の転用によるワクチンへのアプローチ。
- ③治療薬確認製造の見通しが来春頃。

の通りとの事です。

新型コロナウイルス感染の経過は異常と思いますが、新聞報道等を見ますと世界が一つになって上記③項の開発を進めないのか疑問に思えます。先行研究勝利の道のみを追っているようにしか思えません。この情勢を見ますとこの病気を早く治す必要があります。その為国には治療薬の作成の見通しを正していきたいと思えます。そのうえで私たちは国、県への必要な協力・運動を実施していきたいと思えます。私達が出来ることは新型コロナウイルスを撲滅するために先ずは各自が改めて自覚して積極的な運動を展開することが必要と思えます。

本日（7/9）テレビでもこれからの新型コロナウイルス対策は「自分アラート（注意）」と各指導者は言っています。消費生活モニターの私たちは新型コロナウイルス撲滅に向け各行動を実施して行く事を確認し国民生活の向上に努めて行きたいと思えます。